Health Research Information 2026.6

へるす・りさーち No.60

名古屋市衛生研究所

今年の夏も増加するかもしれない手足口病とは！！
～流行が予想される代表的な夏かぜの一つ～

手足口病は、口や手足にできる数mmの水ぶくれを特徴とし、発熱・のどの痛み・倦怠感・口の中の水ぶくれなどを初期症状として伴う夏のウイルス性感染症です。この感染症は、主に子どもが集団生活をしている幼稚園や保育園で流行し、いわゆる夏かぜのグループに入ります。唾液や水ぶくれ、便に含まれる手足口病のウイルスが口から侵入することで感染するといわれています。新型コロナ流行前や2024年には大流行しました。流行期である夏に向けて、注意すべき点などを含めて、今回はこの手足口病についてご紹介します。

【手足口病とは？】

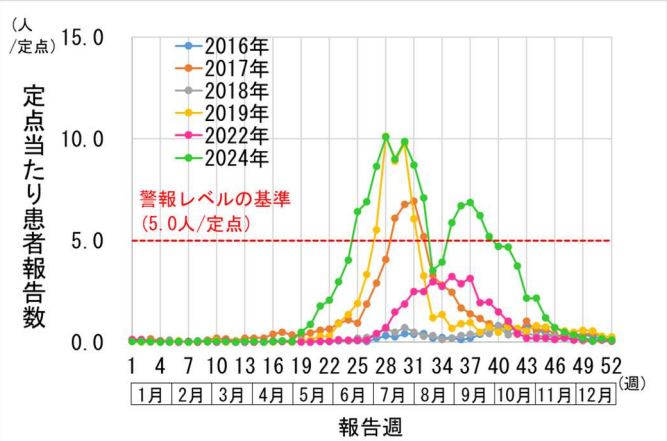
手足口病は、**コクサッキーウイルスA16、A6、A10やエンテロウイルス71など**によって引き起こされます。ウイルスは小さく目に見えず、ウイルスに**感染した人との接触**により感染することが多いです。また、**これらのウイルスは感染力が強く**、主に夏に、子どもが**集団生活を送る環境で感染が広がりやすい**病気です。

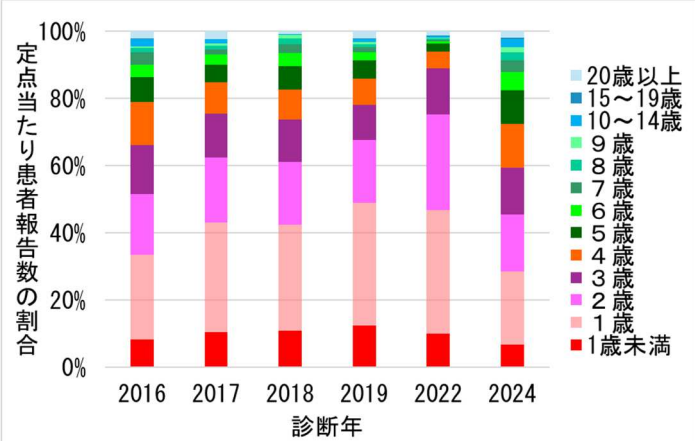
手足口病は国の指定した小児科定点医療機関より毎週、保健所に届出が行われ、**地域ごとに件数の集計**が行われています。下のグラフは、名古屋市の定点医療機関当たりの手足口病患者数(患者がほとんど発生しなかった年を除く)の変化を示しています。左側の週別のグラフは、1年間を52週間に分けており、**1週間の患者報告数が5.0人/定点以上になると警報レベル**になります。右側の年齢別のグラフをみると、0歳～4歳の子どもが多く、3歳未満が総患者のうち50%以上を占めています。

左側の週別のグラフをみると、直近では**2024年の春～秋に流行**がみられ、最大で**1週間当たり約10.1人/定点の患者**がみられました。警報レベルを大きく上回り、**流行期間も2か月以上**ありました。また、7月と9月に2回患者数がピークに達しています。

国立健康危機管理研究機構の**ウイルス遺伝子検査**によると、2024年の手足口病は**2種類のウイルス(コクサッキーウイルスA6とA16)の流行**がみられ、名古屋市もこの2種類のウイルスの流行がみられたと考えられま

名古屋市の定点医療機関当たりの手足口病患者数の変化(左:週別、右:年齢別)



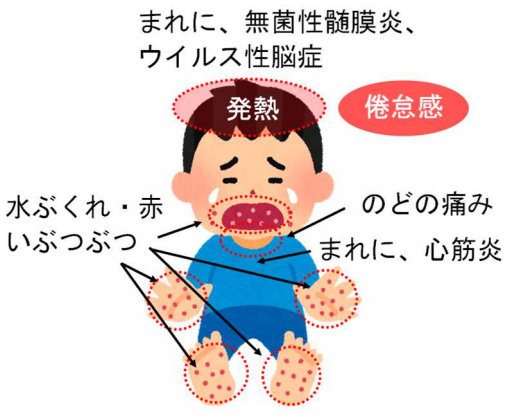


注1) 名古屋市内定点医療機関からの報告に基づき作成(2025年4月6日まで:70定点、2025年4月7日以降:31定点)。　注2)週別のグラフは1年間を第1～第52週の52週間に分けている。　注3) 患者がほとんど発生しなかった2020年、2021年、2023年、2025年を除く。

す。手足口病の原因ウイルスは複数あり、変異もするため、1度感染したとしても、**同じ年や別の年に再感染することがあります。**

最近では**中国・ベトナムなど海外で重症化しやすい手足口病ウイルスの流行が確認されている**ため、海外渡航時などに注意が必要です。

【症状】



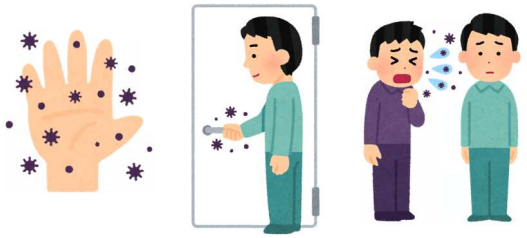
手足口病の潜伏期間は2～5日です。症状は**38度以下の発熱**、のどの痛み、倦怠感、**口の中の痛みを伴う数mmの水ぶくれ・赤いぶつぶつなど**が現れます。口の前方(唇の裏・舌など)にぶつぶつが生じる場合が多いです。その後、**手のひら、足の裏、膝、お尻などに同様の赤い発疹**(ほっしん)が出現します。軽症のことが多く、数日から1週間で軽快する場合は問題ありません。しかし、まれに重症化し、**無菌性髄膜炎**(ずいまくえん)**、ウイルス性脳症、ウイルス性心筋炎などの**合併症を発症することがあり、国内でも死亡例が発生しています。このような重症化はエンテロウイルス71に感染した場合に多くみられます。

手足口病が疑われる場合は、かかりつけの小児科を受診しましょう。特に発熱が続く時、意識がもうろうとしているときなど、重症化が考えられる場合は早めに受診するようにしましょう。

【治療】

手足口病に特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が基本となります。**安静にしていると1週間程度で回復**することが多いです。熱が高い場合は、**解熱剤を使用することがあります**。口の中の痛みに配慮し、**冷やした飲み物などを飲んで水分をこまめに補給する**ようにします。口の中の痛みが強い場合は、**痛み止めを使用する場合があります**。

【感染経路・予防】



手足口病患者の唾液や便、水ぶくれにはウイルスが含まれています。**患者との物理的接触、患者の触れたものとの接触**により、手などを介してウイルスが目・口の粘膜に付着し感染すると、ウイルスが増殖します。これが、**接触感染です。患者と会話**することで飛沫を浴びる**飛沫感染**や、ウイルスが付着した食品を食べることで感染する**経口感染**もあります。また、便中のウイルスが手に付着したことにより起こる**糞口感染**(ふんこう)もあります。これは手足口病に特徴的な感染経路であり、幼稚園や保育園などでは特に注意が必要です。

感染予防対策として、**手洗い・消毒・マスク・うがいなど**を行い、ウイルスを洗い流し、体内に入れないようにしましょう。ポイントとして、手足口病のウイルスは**アルコール消毒はあまり効果がない**ため、**石鹸による手洗いと、次亜塩素酸ナトリウム(0.02～0.1%)による患者が触れた物品の消毒**を行いましょう。タオルの共用を避けることも重要です。**この夏もしっかり予防・対策しましょう。**

編集・発行　名古屋市衛生研究所　疫学情報部

〒463-8585　名古屋市守山区桜坂四丁目207番地　　電話 052（737）3711／Fax 052（736）1102

「へるす・りさーち」掲載ページ（名古屋市公式ウェブサイト内）

URL：https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/eisei/1015269/1034848/1015384.html

2次元バーコード

へるす・りさーち　サイト内検索